

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ピンキラー	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.440	△RG	0.054	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：スレッシュホールド NGS

フレアーの幅 インチ

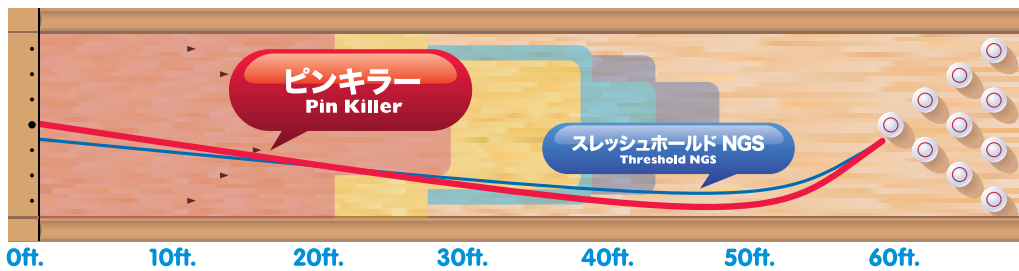
PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

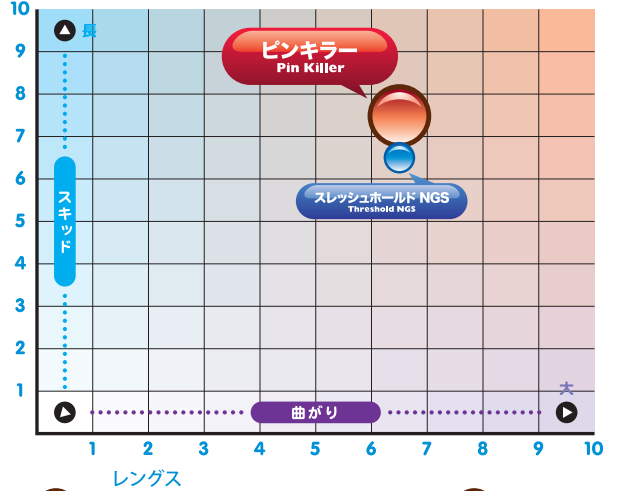
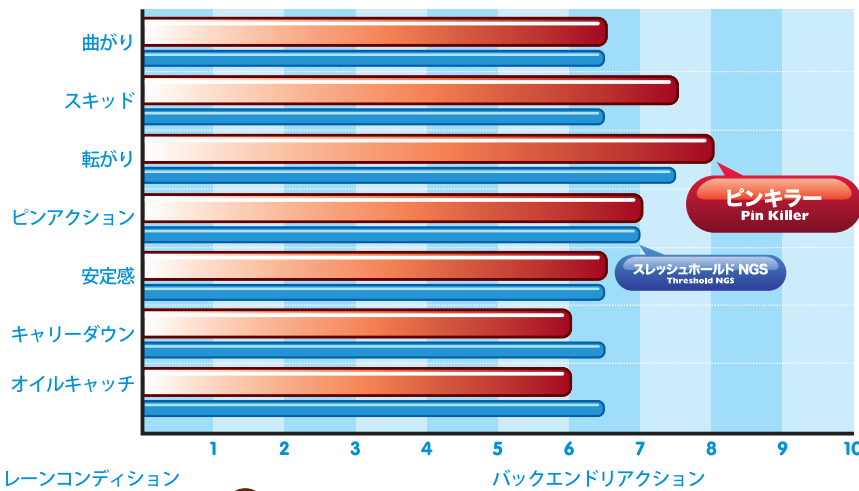
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

ダイノタン第一弾で発売されたレッド & ブラック・ヒーロー（以下、ヒーロー）はオイルの濃淡に過剰反応しないスペックで発売し、その安定したパフォーマンスはプロのみならず、女性の方まで多くのニーズに答えられています。

今回発売するピンキラーはヒーローと全く正反対で、日本国内で最も好まれやすい過激にバックエンドで切れ味を持つスペックでの発売です。

投球した第一印象は、バックエンドでの過激に角の出るリアクションが特徴的です。**バックエンドまで動力を確保するスキッド感とドライゾーンでの向きの変わり方は、USエボナイトからカバーストックを供給されてからのボールでは最大**で、キャリーダウンにはやや左右されるものの、その角の出るリアクションは投げている楽しいボールに感じました。このボールは今年のラウンドワンカップで岡部プロがプロトタイプ（名称：ABS KIP）でパーフェクトを出しており、その性能は発売前からテスターの間では確実に発売できるボールとして候補に挙げられていました。オレンジを基調とした淡い色合いは綺麗で、その見た目からはこの性能を感じさせるジャジャ馬ぶりは想像はつきません。ミディアムコンディションを中心にドライゾーンからの向きの変わり方をその手でお試ください。

特記事項

今回のダイノタン・ピンキラーは「走って切れる」をコンセプトにラインを攻撃的に攻めるスペックでの発売です。「PIN KILLER（ピン殺し）」のネーミングは投げた人にしか分かりません。